

『一神教世界』(WMR) 論文募集要項

2019年4月15日改訂

1. 本誌は、一神教の学際的研究に携わる若手研究者に発表の機会を与え、優れた研究者の育成を目指すことを目的とします。
2. 本誌は年1回(3月頃)、電子ジャーナルとしてオンライン上で刊行します。同志社大学学術リポジトリおよび同志社大学一神教学際研究センターのウェブサイトで公開します。
3. 応募できるのは、原則として、一神教学際研究センターのリサーチ・フェローのうち1名以上が推薦する者です。論文が掲載される場合、推薦者の氏名は論文末尾に記載されます。論文の投稿に際しては、推薦書は推薦者自身が、CISMOR 編集事務局 (journal@cismor.jp) に直接送るよう、ご依頼ください。推薦書の指定フォーマットは、編集事務局から推薦者に直接送付致します。
4. 応募原稿については審査を行い、編集委員会が掲載の可否を決定します。推薦書は掲載判断における参考資料となります。
5. 原稿は、未発表のものに限ります。
6. 投稿希望者は、5月末日までに、サマリー(書式自由、日本語の場合600字程度、英語の場合250 words程度)を電子メールにて提出してください。その際、推薦者の氏名も明記してください。6月中旬までに当編集委員会より投稿の可否を回答致します。
7. 原稿の投稿締切は7月末日です。
8. 原稿はWord形式(下記参照)とPDF形式の二種類で作成してください。WordファイルはMicrosoft Wordのテンプレートを使用してください。日本語のテンプレートでラテン・アルファベット、ヘブライ文字、ギリシア文字、アラビア文字を用いる場合は、“Times New Roman” 10ポイントのフォントを使用してください。テンプレートは、CISMORのホームページからダウンロード可能です(<http://www.cismor.jp/jp/publication/>)。
9. 原稿での使用言語は、日本語および英語です。母国語ではない言語で作成する場合、執筆者の責任のもとネイティブ・チェックを行い、その証明書を提出してください。
10. 原稿は、横書きとします。
11. 分量は、日本語の場合、16,000~20,000字(註を含む)、英語の場合、6,000~7,500 words (endnotesを含む)です。
(図は字数に含まれませんが、チャートおよび表中の情報は字数に含まれます。)
12. 原稿の1ページ目に、表題、執筆者氏名、所属、要旨(日本語の場合400字程度、英語の場合150 words程度)、キーワード(5つ)を日英両言語で記してください。
13. 註は、論文末に一括して掲げてください。参考文献表は原則として掲載しません。

14. 註における、欧文の著書・雑誌・新聞・論文の文献表記は、Chicago Manual of Style に依拠し、次の様に記入してください。

Books

Joseph Blenkinsopp, *Sage, Priest, Prophet: Religious and Intellectual Leadership in Ancient Israel* (Louisville, Ky.: Westminster-John Knox Press, 1995), 20-50.

Edited books

Gary Anderson and Saul M. Olyan eds., *Priesthood and Cult in Ancient Israel* (Journal for the Study of the Old Testament Supplement Series 125; Sheffield, JSOT Press, 1991), 20-35.

Articles or chapters in a volume

Frank Moore Cross, "The Priestly Houses of Early Israel," in *Constituting the Community: Studies on the Polity of Ancient Israel in Honor of S. Dean McBride, Jr.* (John T. Strong and Steven S. Tuell, eds., Winona Lake, Ind.: Eisenbrauns, 2005), 35-55.

Entries in a series volume

John F. Robertson, "The Social and Economic Organization of Ancient Mesopotamian Temples," in *Civilizations of the Ancient Near East 1* (Jack Sasson *et al* eds.; New York: Scribner, 1995), 443-454.

Journal articles

Oliver Robert Gurney, "The Annals of Hattušili III," *Anatolian Studies* 47 (1997), 127-139.

Journals/articles online:

Ada Taggar-Cohen, "Hittite Laws and Texts," *Bible Odyssey* (date of access).
<http://www.bibleodyssey.com/places/related-articles/hittite-laws-and-texts.aspx>

同じ著者が 2 回以上現れる場合は、その氏名を再度フルネームで記入してください。

例：Frank Moore Cross, "The Priestly Houses of Early Israel," pp. 20-25.

雑誌／シリーズの名称は略さずに記入してください。

日本語の著書・雑誌・新聞・論文の文献表記方法は、次の通りです。

著書

市川裕『ユダヤ教の精神構造』東京大学出版会、2004年、50頁。

ロバート・N・ベラー『社会変革と宗教倫理』河合秀和訳、未来社、1973年、343頁。

三木英・櫻井義秀編著『日本に生きる移民たちの宗教生活－ニューカマーのもたらす宗教多元化』ミネルヴァ書房、2012年、215頁。

堀江宗正責任編集『日本の宗教事情 国内編 I』（シリーズ「いま宗教に向き合う 1」）岩波書店、2018年、111頁。

日本海地誌調査研究会『人道の港敦賀－命のビザで敦賀に上陸したユダヤ人難民足跡調査報告－』日本海地誌調査研究会敦賀上陸ユダヤ難民足跡調査プロジェクトチーム、2007年、35頁。

共同訳聖書実行委員会『聖書 新共同訳』日本聖書協会、2018年。

雑誌

基督教研究会『基督教研究』第76巻、第2号、同志社大学神学部、2014年12月。

新聞

久保健一「曖昧な法学者統治；民主化実現の余地残す」（読売新聞 2009 年 2 月 12 日号 所載）。

論文

市川裕「罪の赦しと父祖の徳—ユダヤ教『スリーホート』の祈り—」『筑波大学地域研究』第 6 号、筑波大学地域研究研究科、1988 年、260-261 頁。

小原克博「一神教と多神教をめぐるディスコースとリアルポリティーク」『一神教学際研究』第 2 号、同志社大学一神教学際研究センター、2006 年、13-14 頁、

<http://www.cismor.jp/uploads-images/sites/2/2014/02/d2c51acebf75bce1ecce270c28433c92.pdf>
(閲覧日)。

その他、不明な点がございましたら、編集委員会にお尋ねください。

15. ヘブライ文字、ギリシア文字、アラビア文字については、原語表記も認めます。その他のラテン・アルファベット以外の文字は、原則として、ラテン・アルファベットに転写し、かつ論文内で転写法を一貫させてください。

転写をする場合、可能な限り、Billie Jean Collins, project director, *The SBL Handbook of Style: For Biblical Studies and Related Disciplines*, second edition, Atlanta, Georgia: SBL Press, 2014 (以下 SBL)、第 5 章 (p. 55 以下) に準拠してください。ヘブライ文字については、SBL には、Academic Style と General-Purpose Style が掲載されていますが、投稿者の目的に応じて、どちらを用いてもかまいません (その他、コプト語、アッカド語、エジプト語、ウガリット語等の古代語の転写についても、SBL の使用を推奨します)。

アラビア文字については、国内の投稿者は、可能な限り、大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』(岩波書店) に準拠してください。海外からの投稿者に対しては、とくに転写法を指定しませんが、アラビア語、ペルシア語、トルコ語の転写については、可能な限り、ALA-LC (Library of Congress) に準拠してください。

これらのガイドラインの入手が困難な場合は、編集委員会に連絡してください。

16. 原稿は刊行後 PDF ファイルにし、執筆者に提供いたします。

問い合わせ・提出先

同志社大学一神教学際研究センター 『一神教世界』編集委員会

E-mail: journal@cismor.jp